



KKR東海病院

第45号 2014.7

編集責任者 丸田真也(診療部長)

# とうかい

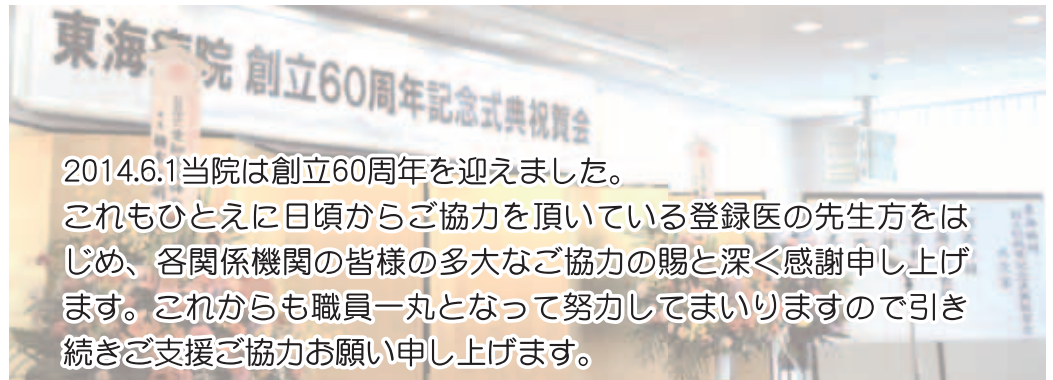
国家公務員共済組合連合会 東海病院  
〒464-8512  
名古屋千種区千代田橋1-1-1  
TEL 052-711-6131(代)  
FAX 052-712-0052  
<http://www.toukaihos.jp/>

創立60周年を迎えて ..... 1

新院長のご挨拶  
東海病院院長  
山本 英夫 ..... 2

前院長のご挨拶  
東海病院顧問  
早川 直和 ..... 3

新任医師のご紹介  
外科医長  
新美 清章 ..... 4  
内科医長  
石川 英樹 ..... 4  
内視鏡外科手術センター顧問  
長谷川 洋 ..... 4



2014.6.1当院は創立60周年を迎えました。  
これもひとえに日頃からご協力を頂いている登録医の先生方をはじめ、各関係機関の皆様の多大なご協力の賜と深く感謝申し上げます。これからも職員一丸となって努力してまいりますので引き続きご支援ご協力お願い申し上げます。



## 創立60周年を迎えて



### KKRとは?

国家公務員共済組合連合会の  
頭文字をとった略称です。  
私たちはみなさまにKoKoRo(心)の  
こもったサービスを提供するための

**誠意** (Sincerity)

**奉仕** (Service)

**考動** (Science)

3つのSをモットーに、  
地域社会への貢献を目指しています。

## 新院長のご挨拶



私は平成3年1月東海病院に外科医長として赴任し早川前院長のもとで外科部長・副院長として勤務して参りましたが、本年4月1日付け院長を引き継ぐこととなりましたので、ご挨拶申し上げます。

東海病院は昭和29年6月に、336床の結核病院として設立されましたが、結核患者の激減に伴い存続が危ぶまれた時期を経て、昭和63年4月に180床の一般病院として再スタートしました。以来小回りが利く一般病院として発展し地域住民の方々にご利用いただき、お陰様で今年60周年を迎えることができました。これもご利用いただきました診療所・会員の先生方のおかげと感謝申し上げます。



新院長 山本 英夫

東海病院は180床と小規模ですが、現在内科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・眼科診療を行っています。小規模病院の利点を生かし、医師・看護師・薬剤師・検査技師・放射線技師・管理栄養士・臨床工学士・MSWなどの多職種間の連携を密とするチーム医療・患者中心の医療を実践し、得意分野において高い医療技術を提供していきたいと思いをします。

今年度の診療報酬改定では、地域包括ケアシステムの創設・医療機関と機能分化と強化連携（7対1入院基本料の見直しや短期滞在手術の拡大による高度急性期と一般急性期病院の分化など）・在宅医療の充実が重点課題として取り上げられ、東日本大震災の時の津波のような大きなうねりが医療界に押し寄せております。当院もこの大きな波に飲み込まれてしまわないよう、当院の進むべき方向性をしっかりと見極めてまいりたいと思いをします。また、現病棟は老朽化と狭隘さのため、患者さんにとっては決して良い療養環境とは言えません。当院の恵まれた自然環境を残しながらの建て替えの実現とまた、診療内容の一層の充実に向け職員一丸となって努力して参りますので、今後ともご利用いただきますようお願い申し上げます。

## 前院長のご挨拶



東海病院顧問 早川 直和

病診連携登録医の先生方にご挨拶申し上げます。

小生、3月31日付けで、東海病院院長を退任いたしました。足掛け27年に亘る院長生活によつやく一区切りすることが出来ました。何とか病院を維持でき、無事にこの日を迎えることができました。病診連携登録医の先生方のあたたかい御支援の賜物と改めまして感謝申し上げます。

昭和の終わりから平成元年にかけて、名古屋大学文部教官と兼務で非常勤の院長代行、常勤の院長代行、正式な院長とあわただしく国家公務員共済組合連合会（KKR）本部へ3度辞令を受けに上京したのを懐かしく思い出しております。病院管理者の経験がまったく無くKKRという重い看板を背負った小病院の管理をということであらざるばかりの船出でした。また、3度に分けての辞令に象徴されるように本部の役員にとっても大変に不安で心配な人事であったことと思われま

す。院長在任中を顧みますとベルリンの壁が崩壊し、東西冷戦が終結し、新自由主義といわれる個を重んずる競争社会に世の中が大きくふれた時代でもあったように思います。バブル崩壊後の経済立て直しの突破口と煽られた構造改革路線は結局、勝ち組、負け組みなる言葉も生じたように格差社会を助長しました。

世界に誇れる医療保険制度で共存共栄、共済を旨とする我々の医療や介護の職場にも自助努力、自己責任の名の下に市場原理主義が容赦なく持ち込まれました。KKRにおいても施設や病院の統廃合など厳しい競争にさらされた時を過ごしたように思います。

こんな中で、表向きは効率の良い医療供給体制をという、医療費抑制策の見え隠れする病診連携システムが生まれ、従来の自己完結型医療から地域の病院、診療所を含めた全てがひとつの医療機関になるという高い理想のもと始まりました。僅か180床の病床規模で、厳しい病床規制にある名古屋医療圏で自己完結型医療は望むべくも無くさらに、旧結核病院で一般患者さんには敬遠され不安がられがちな病院から一般病院へと茨の道にある東海病院には地域完結を目指した機能分化の中で一隅を担う医療は病院の存続をかけて取り組むべき重要課題であったように思います。

大病院のようになんでも診るといふわけにはいかないの、自信をもって提供できる医療部門をできるだけ多くし、それを地域で活躍して見える医療の専門家である先生方、すなわち玄人の方々に理解していただき、御利用いただくことの重要性を常々職員に訴え叱咤激励し、お互いの顔の見える医療、玄人受けする病院を目指し、努力を重ねてまいりました。まだまだとは思いますが、職員の奮闘努力と登録医の先生方の暖かい御理解と御支援により、何とか今日まで病院を維持できたものと感謝いたしております。

この4月の診療報酬の改定では、更なる医療提供体制効率化の名のもと地域包括ケアシステムが登場し、一人の患者さんに一つ病気の治療の各過程をさらに細分化する医療供給体制が求められています。

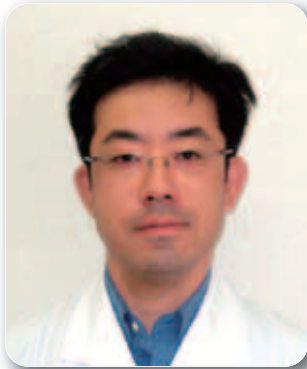
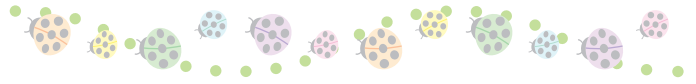
これが本当に患者さんにとって幸せなのか？と昔気質の消化器外科医の私には疑問が残ります。

医療人にとっても患者さんや施設利用者にとっても理不尽な部分も多々あると思いつつも、与えられたシステムの中で患者さんの幸せを願うのが我々の使命と思ひこれからも日々の診療や介護に努めたいと願っています。

この地域で東海病院がこれから如何なる体制で如何なる部門を担っていくかは山本英夫院長に託しました。山本院長は20年以上に亘り、東海病院外科チームならびに病院管理者の片腕として私を助け、支えてくださったのは皆様の御存知の通りでございます。顔の見える、玄人受けするという精神は受け継いだ上でさらによりよい連携システムを目指してくださると確信いたしております。登録医の先生方の更なる御支援をお願い申し上げます。

尚 4月からはKKR理事長より顧問の辞令を頂き、引き続き東海病院に勤務いたしております。併設の介護老人保健施設「ちよだ」を中心にお手伝いする傍ら、週一回（木曜日）の外来を担当し、メスも時々握らせていただいております。引き続きご利用いただければ幸いに存じます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

# 新任医師のご紹介



外科医長  
新美 清章(にいみ きよあき)  
診療科：血管外科

H9年岡山大卒です。以前当院に在職していましたが、何かの縁で3年ぶりに戻ってまいりました。外科では血管領域を担当しています。

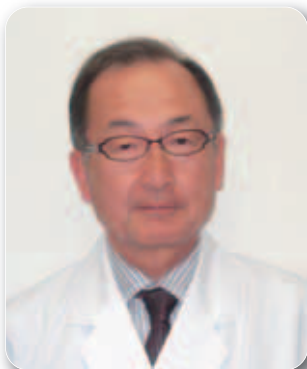
主に下肢静脈瘤、リンパ浮腫を診ていますが、PDA（末梢動脈疾患）、深部静脈血栓症、大動脈瘤などの他の血管疾患の診療も行っています。よろしくお願いいたします。



内科医長  
石川 英樹(いしかわ ひでき)  
診療科：消化器内科

1月より赴任になりました石川英樹と申します。名古屋大学消化器内科・胆膵グループの出身です。胆膵疾患の診断・内視鏡治療を専門とし、EUS、EUS-FNA,ERCPを得意としております。また特殊治療として、十二指腸乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除はこれまでに55例を経験し、全国の患者さんの治療をして参りました。これまでは胆膵の常勤医はなく、代務医師が担当しておりました。名古屋大学、愛知県がんセンター中央病院等の関連病院で習得した手技で、閉塞性黄疸など胆膵疾患の患者さんのマネジメントを素早く行い、開業医の先生方のお役に立ちたいと思っております。胆膵疾患の患者さんがおられましたら、気軽に電話でも相談して頂けると幸いです。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。



内視鏡外科手術センター顧問  
長谷川 洋(はせがわ ひろし)  
診療科：消化器外科 内視鏡外科

本年4月に内視鏡外科手術センターの顧問として着任致しました。何卒よろしくお願いいたします。昭和50年に名古屋大学を卒業し、静岡済生会総合病院、癌研究会附属病院、名古屋大学病院、名古屋第二赤十字病院に勤務しました。

前任地の名古屋第二赤十字病院には26年間勤務し、外科部長、副院長を勤めました。専門は消化器外科ですが、内視鏡外科手術には1991年の開始当初の時期から興味を持って取り組み、手技の確立、普及、安全な手術の教育などの分野を中心に長年仕事を行ってまいりました。この間は、特に胆嚢、総胆管、大腸などの内視鏡外科手術の分野においては我が国のトップレベルの実績をあげてきました。内視鏡外科手術の適応疾患は、胆嚢（ラパコレ）に始まり大腸、胃と短期間に急速に拡大してきています。また、最近では技術、器機の進歩に伴い、今まで不可能と考えられていた膵臓、肝臓などの領域にも適応が拡大しつつあります。東海病院におきましても、今までの経験と実績を生かして、より安全で確実な内視鏡外科手術の実践、教育を目指したいと考えております。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。